

磐梯朝日遷移プロジェクト平成 26 年度連携研究成果報告書

イワキアブラガヤとビャッコイの分類学的研究

黒沢高秀・兼子伸吾

磐梯地域と関連が深く、レッドデータブックで高いランクのカテゴリーに位置づけられるイワキアブラガヤとビャッコイの 2 種の分類学的な問題を解決することを目的に、連携研究を進めている。

イワキアブラガヤ *Scirpus hattorianus* Makino (カヤツリグサ科) は磐梯地域で見出された植物で、福島県のレッドデータブックで絶滅種とされている植物である。これまで在来の絶滅種という意見と北米からの帰化種という意見があり、見解が定まっていなかった上に、帰化種セフリアブラガヤとの混同があり、分類学的に混乱している。現地調査、標本調査、文献調査、聞き取り調査を元に、イワキアブラガヤが生育した当時の生育地の状況やその背景、帰化の可能性を検証した。日本での確実な自生地は表磐梯地域の 1, 2, 3 または 4 箇所のみで、自生地で採集された標本数も 8 枚と極端に少なく、採集時期も 1925～1939 年と短期間であった。イワキアブラガヤが生育していた当時は採集地周辺に広く造成地が出現するとともに、アメリカ合衆国から輸入された物資が使われていたことがわかった。現時点では、日本産のイワキアブラガヤは、一時的な帰化植物として扱うのが妥当であると思われる。このような結果を論文にまとめた(黒沢ら, 2015)。2014 年に、北米産のイワキアブラガヤとセフリアブラガヤ等の近縁種の間で異なる塩基配列があることが明らかになった。そのため、その配列を用いて、日本のイワキアブラガヤとの比較や、識別形質の花や果実が未熟で種まで同定できなかった標本の塩基配列に基づく同定などを準備している。

ビャッコイ *Isolepis crassiuscula* Hook.f. (カヤツリグサ科) は環境省のレッドリストで絶滅危惧 IB 類に指定されている絶滅危惧植物である。ビャッコイは磐梯地域で見出された植物であるが、磐梯地域からの牧野富太郎の報告は間違いで、生育地はもともと白河市表郷地区のみであると誤解されている。現在、オセアニアに分布する植物と同種とされており、数千 km も隔離した不自然な分布をしている。しかし、先行研究では一般に進化速度が遅く、種内変異が検出されることが稀な *rbcL* 領域の塩基配列が異なることも明らかになっている。本研究では標本調査を進め、形態や分布の情報を集め、複数の磐梯地域からの標本を確認した。また、同種とされるオセアニア産の植物についても入手した。系統関係や分類学的位置づけについてより正確に明らかにするために、遺伝解析を進める予定である。また、2 箇所しか現存しない自生地は、周囲に植えてしまったスギやモウソウチクや、外来生物オランダガラシの繁茂のために一見して保全状況が劣悪なので、来年度以降、保全対策等についても検討したいと考えている。